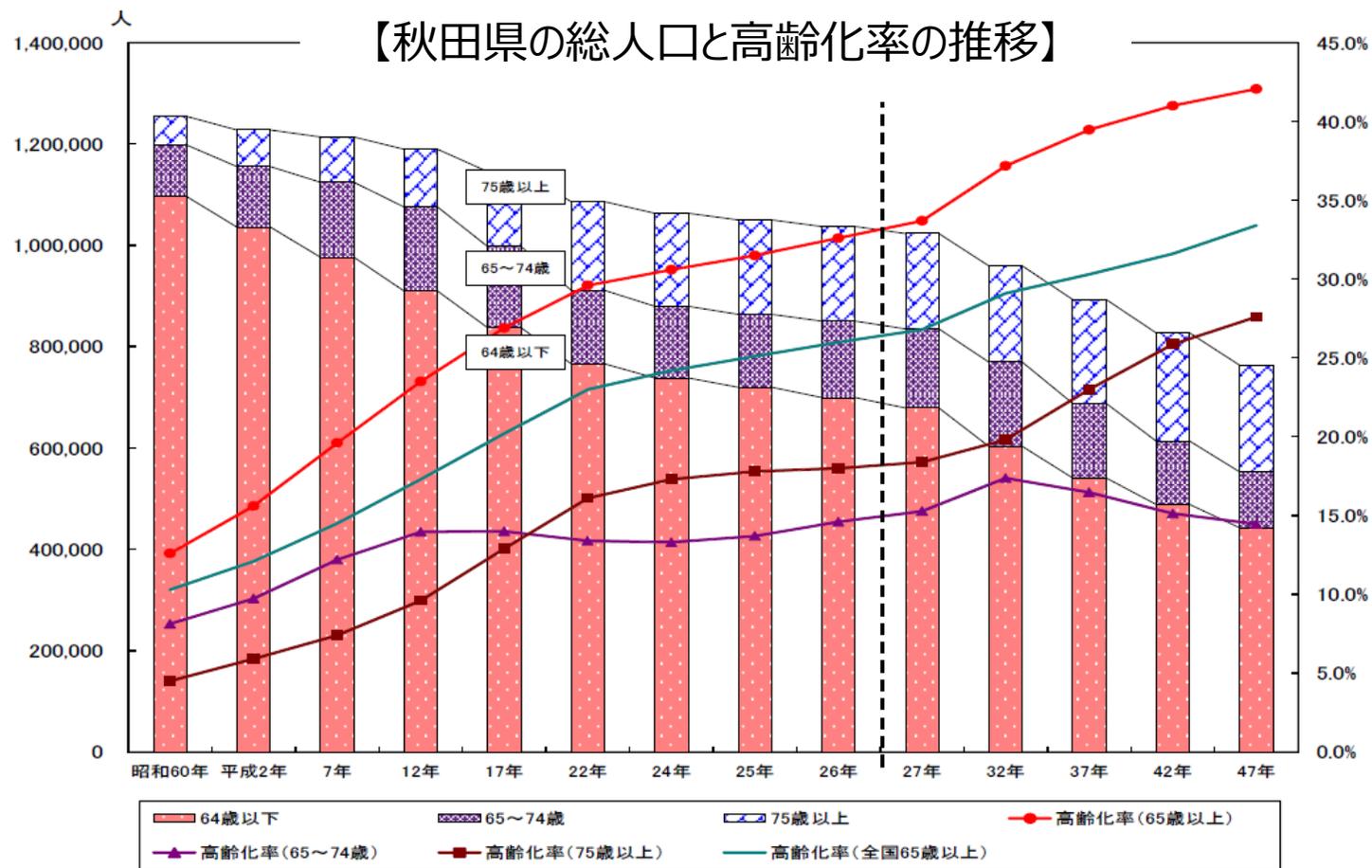

2. 秋田県の医療・介護の現状

2-1. 高齢者人口の変化

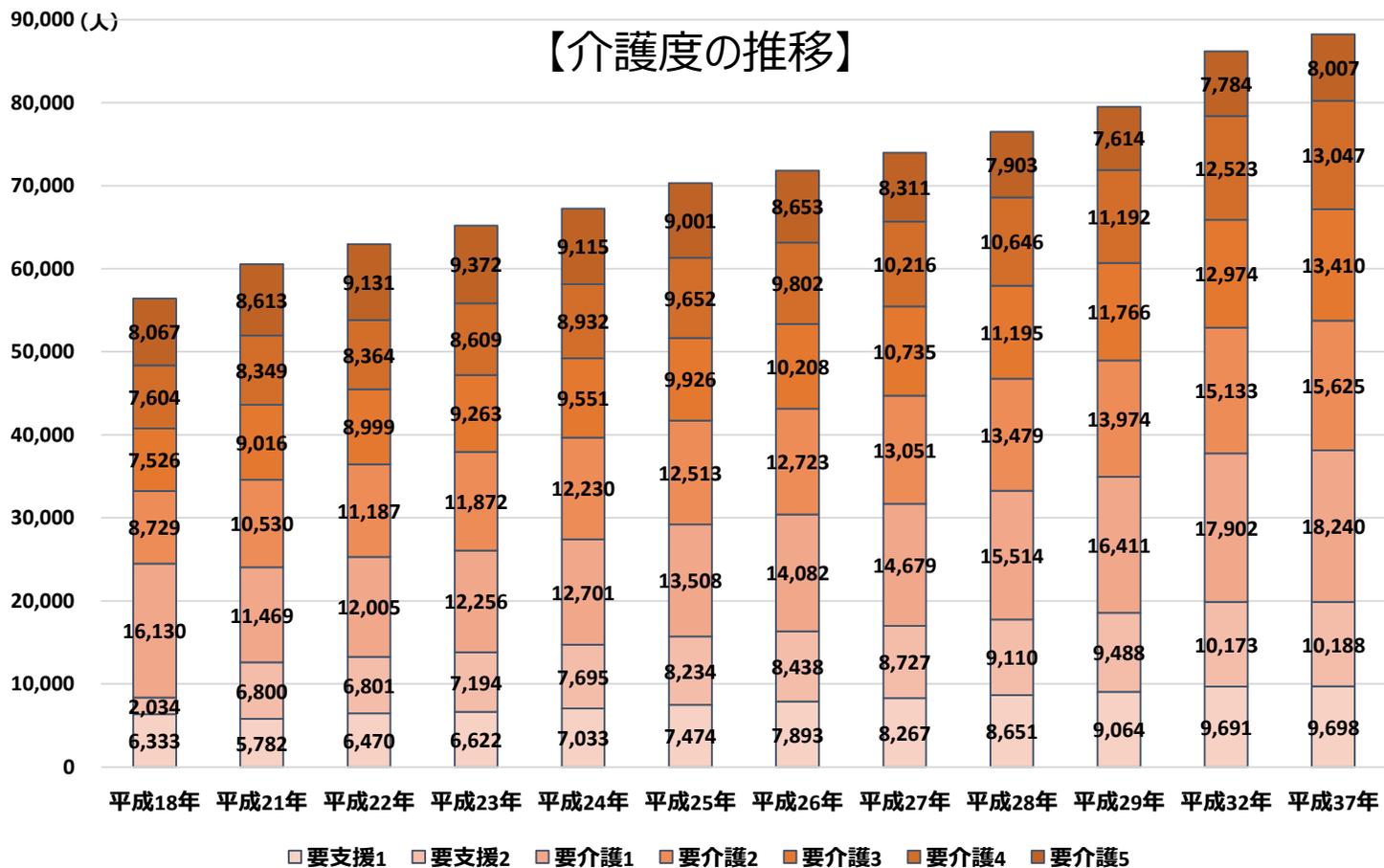
2-1-1. 高齢化率の推移

■ 高齢者数は年々上昇を続けており、平成26年10月1日現在の秋田県の人口は1,036,861人で、65歳以上の高齢者数は338,000人、高齢化率は32.6%であった。平成27年以降も高齢化率は上昇を続け、平成37年には40%に迫ると見られる。一方、64歳以下の人口減少も著しく、平成37年には平成26年比22.6%の減少で54万人余りになると推計される。



2-1-2. 介護度の推移

■ 要支援・要介護認定者数は年々増加しており、平成26年には約72,000人に達した。今後も、要支援・要介護認定者の増加は続く見込みで、団塊の世代が75歳以上となる平成37年には、88,000人を超える見込み。

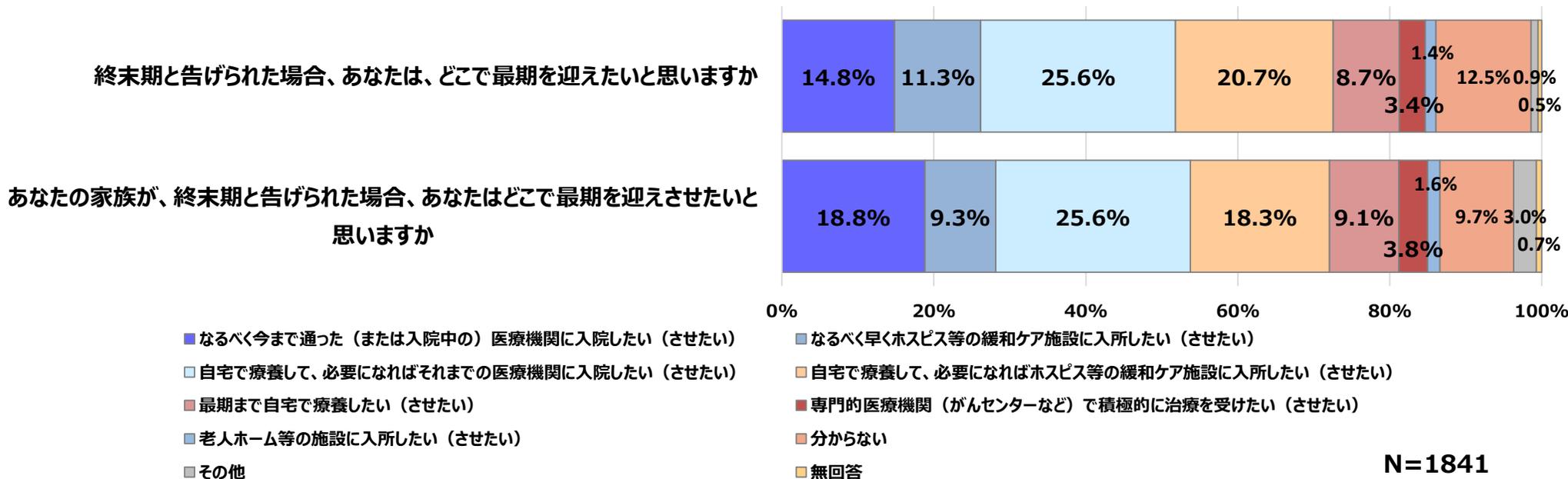


※数値は、秋田県「第6期介護保険事業支援計画・第7期老人福祉計画」による。
 グラフは独自に作成。

2-2-1. 在宅医療に対する県民の意識

- 平成27年に、秋田県は県内に居住する成人男女3,000人を対象に、在宅医療に対する意識調査を行った。この調査によれば、「自宅で療養して、必要になればそれまでの医療機関に入院したい」「自宅で療養して、必要になればホスピス等の緩和ケア施設に入所したい」「最期まで自宅で療養したい」と、終末期に何らかの形で「自宅で療養したい」と考えている人の割合は、本人及びその家族とも50%を超えている。

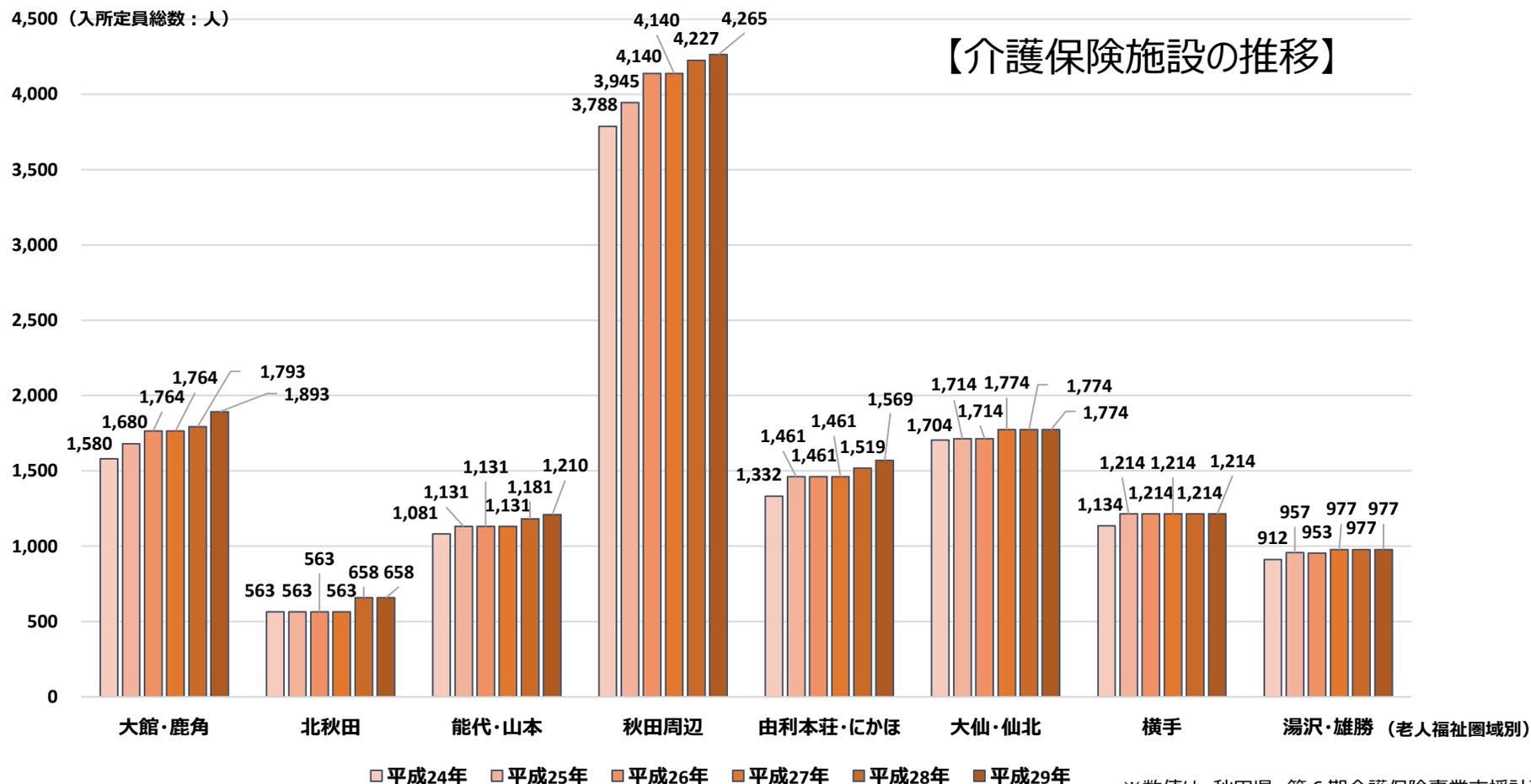
【終末期の療養の場に対する秋田県民の意識】



※数値は、資料「平成27年 秋田県 在宅における医療・介護に関する県民意識調査報告書」44ページ～47ページによる。グラフは独自に作成。

2-2-2. 介護保険施設の整備状況

■ 秋田県の介護保険施設（介護老人福祉施設、介護老人保健施設、介護療養型医療施設）の入所定員総数の整備は、これまで高齢者人口の増加に伴って増加傾向にあった。しかし、第6期計画期間中、介護保険施設における入居定員総数の推移は、県下8つの老人福祉圏域（二次医療圏に相当）の間で異なっている。



※数値は、秋田県「第6期介護保険事業支援計画・第7期老人福祉計画」による。グラフは独自に作成。

2-2-3. 医師数、看護職員数の現状

- 秋田県のまとめによれば、平成26年の医師数、看護職員数は下の表の通りであり、医師、看護職員ともに秋田周辺医療圏に勤務地が集中しており、他の医療圏との間に大きな差がある。

【医師数、看護職員数の現状】

二次医療圏	医師数		看護職員数	
	人数（人）	構成比（%）	人数（人）	構成比（%）
大館・鹿角	158	7%	1,487	11%
北秋田	37	2%	370	3%
能代・山本	146	7%	1,117	8%
秋田周辺	1,242	55%	5,798	43%
由利本荘・にかほ	195	9%	1,512	11%
大仙・仙北	196	9%	1,461	11%
横手	189	8%	1,256	9%
湯沢・雄勝	80	4%	579	4%
合計	2,243	100%	13,580	100%

※構成比は、小数点以下、四捨五入した値

※医師数は「H26 医師・歯科医師・薬剤師調査」（病院・診療所の従事者）による

※看護職員数は「H26衛生行政報告例」及び医務薬事課調べ（病院・診療所・訪問看護ステーション・介護保険施設等の従事者）による

※数字はいずれも平成26年12月31日現在の実数